

「自分だけマスク外すわけには」 政府の「不要」見解にも残る不安

2022/5/20 毎日新聞



マスクをして歩く人々＝東京・銀座で、丸山博撮影

新型コロナウイルス流行下で3度目の夏が近づく中、政府は20日、未就学児にはマスクを求めず、大人でも会話のない屋外などでは不要だとの見解を公表。「それでも自分だけ外すわけには……」。街で話を聞くと、そんな不安も漏れてきた。

東京都内で最高気温が25度を超えて夏日となった19日、上野公園では、半袖姿の親子連れの大半はマスク姿だった。6歳の娘を遊ばせていた女性(36)は「マスクを着けなくて済むならありがたい」と期待する。幼稚園は運動の時間を除いてマスク着用を求めている。娘は一時、顔が肌荒れし、マスクを外してあげたいが「園が規則を見直して全員が着けられないようにならないと、娘だけ外すわけにはいかない」と不安が残る。

「千代田せいが保育園」(東京都)は屋内では年長以外の着用を勧めていない。きちんと着用できないためだ。屋外では全園児にマスクを外させるが、通行人から厳しい視線を感じることがあるといい、倉掛秀人園長は「これで無理してマスクを着ける必要がなくなり気が楽になる」と話した。大人についても会話のない屋外では不要とされ、安堵(あんど)の声が上がる。上野公園のベンチでマスクなしで読書していた千葉県男性会社員(60)は園内を見渡し「ここなら外してもいいのでは」と語った。「周囲の目を気にしてマスクを着用している人が多い。必要以上にマスクをしなくて済むようになれば」と望んだ。

薄暗くなり始めた午後6時すぎ、皇居の周囲を走るランナー100人を記者が確認したところ、39人がマスクを着けていた。4月ごろから徐々に外す人が増えているというが、不織布マスクを着用し「トレーニングのつもりだが、息苦しくてきつい」と漏らす70歳女性もいた。50代の会社員男性はマスクをポケットに入れて走り、歩行者が多い場所では念のため取り出して着けている。「他人にどのくらい近付くと感染リスクがあるのかわからない。専門家らは科学的根拠をもとに丁寧な説明を」と求めた。